

報 告

第 73 回日本歯科理工学会学術講演会報告

平成 31 年度春期大 73 回日本歯科理工学会学術講演会
が、東京歯科大学歯学研究科歯科理工学教室教授、服部
雅之先生を大会長として、2019 年 4 月 20, 21 日に東京
歯科大学水道橋校舎新館の血脇記念ホールをメイン会場
に開催された。本大会における一般講演の演題数は、口
頭発表 19 題、ポスター発表 68 題の計 87 題であった。
また、Dental Materials Adviser/Senior Adviser 特別セミ
ナーを兼ねた特別講演とランチョンセミナー、そして企
業展示が開催された。

大会初日の口頭発表では、研究奨励賞応募発表 3 題を
含めコンポジットレジン、セラミックス、生体材料・細
胞など、計 11 題の講演が行われた。また、7 階ポスター
会場では演題数 34 題の発表が行われ、レジン・接着材
関連のテーマが多く見られ、会場では熱心な質疑応答が
行われていた。

今大会の特別講演は、東京歯科大学法歯学・法人類学
講座の橋本正次教授によって「骨の人種特徴による個別
認識」と題して行われた。講演では個人識別（身元確認）
を行うにあたり、これからの国際化社会においては、従
来の歯科的特徴、DNA 鑑定などに加えて、骨格情報な
どに基づく人種鑑別を付加した新たな方法論の重要性に
ついて講演された。また、臨床系研究室、基礎系研究室
とは異なり、鑑定作業と研究とのバランスを取りながら
教室を運営する必要がある、法歯学と言う特殊な研究分
野でのご苦労についても、理解することができ、大変意
義のあるものであった。日中の有意義な講演の後は、場
所を変えて、飯田橋のホテルメトロポリタンエドモント

において懇親会が行われた。開会の挨拶前には、メイン
ホールから参加者が溢れるほどの大盛況であったが、会
が進むにつれて、人の流れも可能になり、会場内の各所
で有意義な交流・情報交換が行われたようであった。

大会二日目の一般口頭発表では、初日に引き続きセラ
ミックスについての 4 題の講演が行われた。また、ポス
ター会場では演題数 34 題の発表が行われ、チタン、セ
メント、レジン、臨床応用に関する報告がなされ、初日
と同様に熱心な質疑応答が行われた。また、ランチョン
セミナーおよび Dental Materials Adviser/Senior Adviser
特別セミナーとして、「大学発シーズ『炭酸アパタイト
製人工骨サイトランスグラニュール』の実用化」と題し
て 5 階 C 会場にて行われた。炭酸カルシウムを前駆体
として溶解析出反応による完全化学合成により生成され
た炭酸アパタイトを用いてさまざまな治験を行い、医療
分野で初の合成炭酸アパタイトの使用を目指してきた、
基礎研究から応用展開に渡る研究開発についてご講演い
ただいた。また、シンポジウムおよび Dental Materials
Adviser/Senior Adviser 特別セミナーとして、「デジタル
ソリューションの流れを探る！」という話題について、
昭和大学准教授堀田康弘先生をモデレーターとし、5 名
の講師の先生方を産・学界からお招きして、デジタル技
術の発展と歯科への応用展開について、その現状と将来
展望のご講演をいただいた。どちらのセッションも非常
に勉強になった。

服部雅之大会長、笠原正彰準備委員長を始めとする運
営スタッフの皆様の御尽力により、今大会はつつがなく
進行し盛況のうちに終了した。これもスタッフの皆様の
入念な計画と準備の賜物であると深く感謝し、第 73 回
日本歯科理工学会学術講演会の報告とさせていただきます。

阿部薫明
(長崎大学生体材料学分野)

